GReddy AL RADIATOR

取 扱 説 明 書

適合車種：ホンダ　S2000　AP1(AP1)　H11.4～H16.2

1.セット内容

①アルミラジエーター　②ドレーンボルト　③1/8PT プラグボルト　④M6×15組ボルト×1

2.装着の前に

⚠ 警告

1. 車種･エンジンにより設定が異なりますので、取付け前に必ず確認して下さい。
2. やけど等の重大な傷害を負う恐れがありますので、必ずクーラントが十分に冷えてから作業して下さい。
3. この製品の取付けは、必ず**経験と技術の有る専門ショップ**で行って下さい。
4. この製品の取付け作業を行う際は、水漏れを起こさない様に、1/8PT プラグボルトにシールテープを巻き、取付けて下さい。
5. エンジン始動後、ラジエーターは熱くなりますので、やけどに注意して下さい。

3.取付け方法

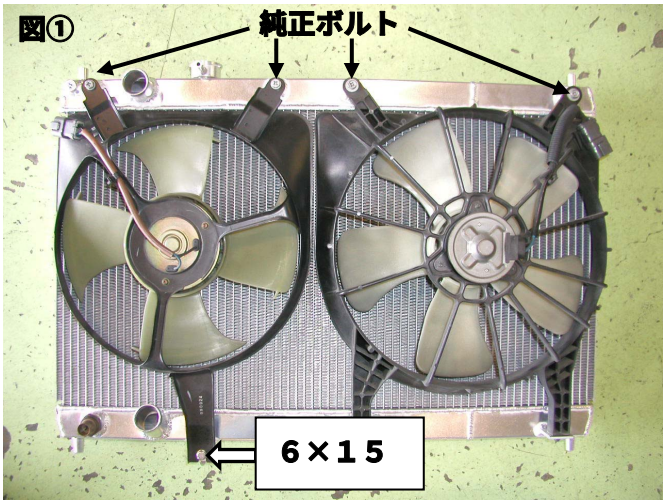
※製品に強い衝撃を与えたり･落下等の無理な力を加えると、クーラント漏れや装着不良の原因になりますので取扱に注意して下さい。

1. 整備要領書を参照し、純正ラジエーターを外して下さい。
2. ラジエーター1/8PT部に、シールテープを巻き付けて下さい。(1/8PTセンサー以外は取付け出来ません)
3. ファンシュラウドを純正及び、付属のM6×15組ボルトで取付けて下さい。

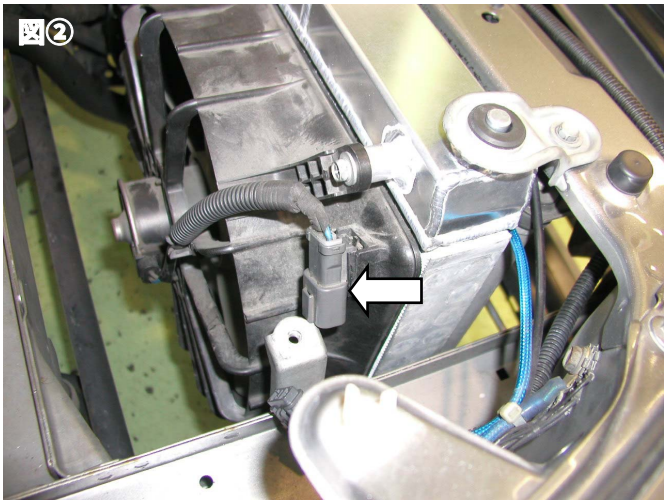
※ファンシュラウドRH (図②) 矢印のカプラーをシュラウドから外しフリーにして下さい。

4. 外しと逆の手順でラジエーターを取り付けて下さい。(各部が干渉が無い事を確認して下さい。)
5. クーラントを注入し、エア抜きを行いエンジン始動後、漏れ･水量･異常が無い事を確認して下さい。
6. 慣らし運転後、再度点検を行って下さい。

図①



図②



4. GReddyターボKIT装着車

GReddyターボKIT装着車両は、電動ファンシュラウドにインタークーラー配管の逃げ加工が必要です。
図斜線部を、配管が干渉しない様カット加工して取付けて下さい。

注意 加工時は、保護メガネ・マスクを着用し安全に行なって下さい。

注意 加工箇所はよくバリ取りをし、錆防止の為必ずペイントで補修して下さい。





取付け作業を行うにあたり、ご不明な点がございましたら、弊社までご連絡下さい。

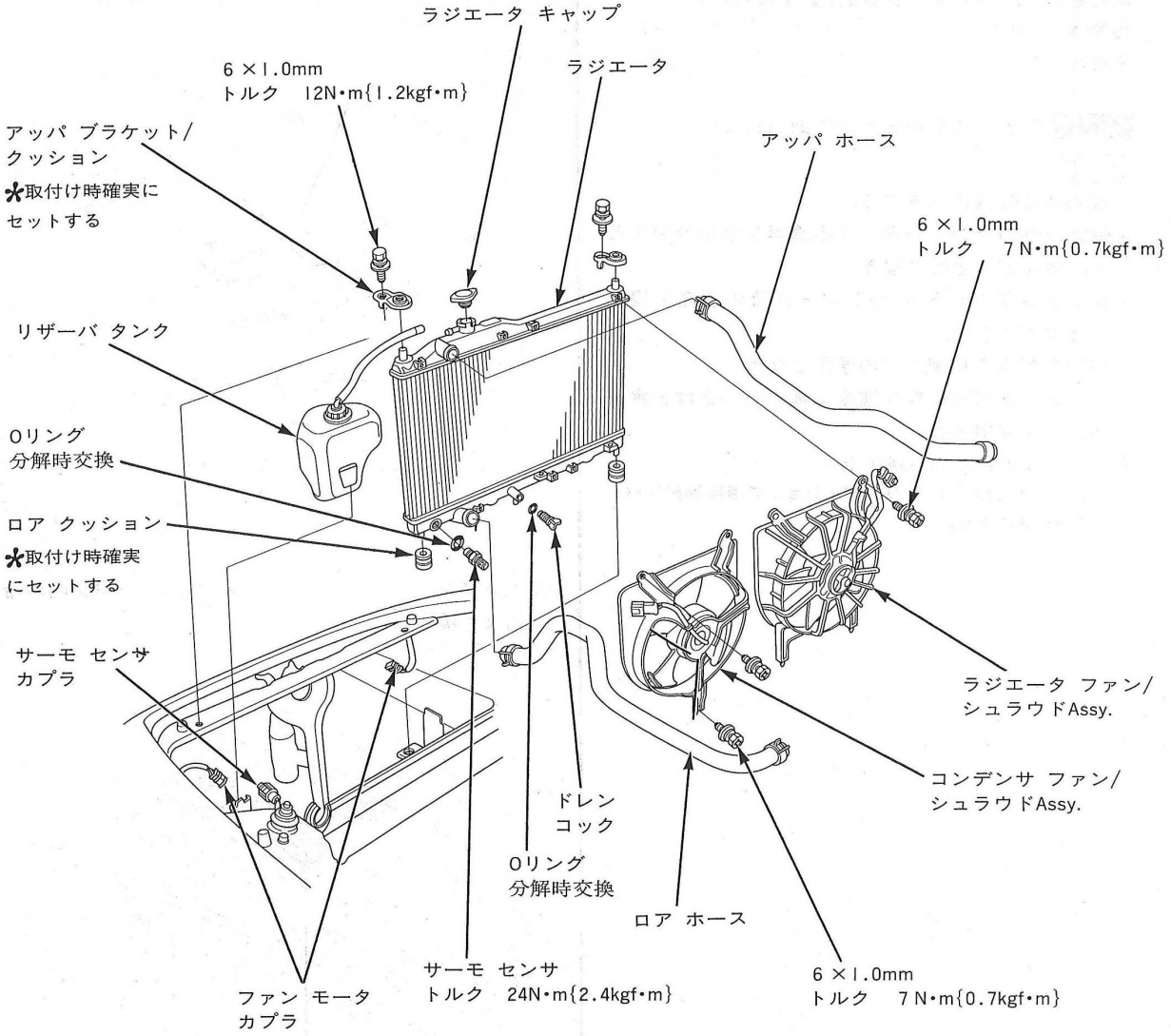
株式会社トラスト
〒289－1605　千葉県山武郡芝山町大台3155番地5　　TEL.0479-77-3000(代)

」

ラジエータの交換

①冷却水を抜く。(5—78頁参照)
②アッパ ホースおよびロア ホースを外す。
③サーモ センサ カプラおよびファン モータ カプラの接続を外す。
④ラジエータ アッパ ブラケットを外し、ラジエータ アッセンブリを引き上げる。
⑤ラジエータ ファン/シュラウドAssy.その他の付加物を取外し、ラジエータを交換する。
⑥取付けは、取外しの逆手順で行う。

✱・Oリングは必ず新品を使用する。
・ホース類のヒビ割れ、損傷を点検する。
・ラジエータ ロア クッションおよびアッパ ブラケット/クッションは確実にセットする。



冷却水交換とエア抜き

冷却回路の防錆のため、推奨交換時期ごとに交換する。

推奨交換時期	第1回目：3年 第2回目以降：2年ごと
指定液	ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液
冷却水規定濃度	50%

規定量(リザーバ タンク分0.6ℓを含む)
交換時：6.4ℓ
分解時：7.5ℓ

注 意 毒性があるから絶対に飲用しない。

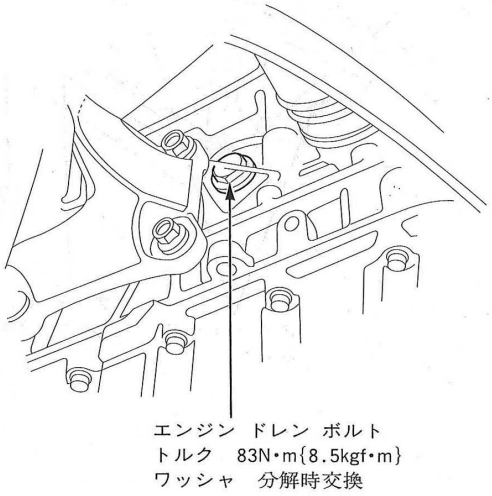
注 意
- 他銘柄との混合はさける。
- 指定以外のラジエータ液や不適当な水を使用すると、錆などの原因となる。
- ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液の濃度を規定以上に薄めない。
  防錆力が低下し錆などの原因となる。
- ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは上水道(軟水)を使用する。

*・エンジンが冷えている時に行う。
・ヒータまたは、エア コンディショナの温度調節レバーをHOT側にする。

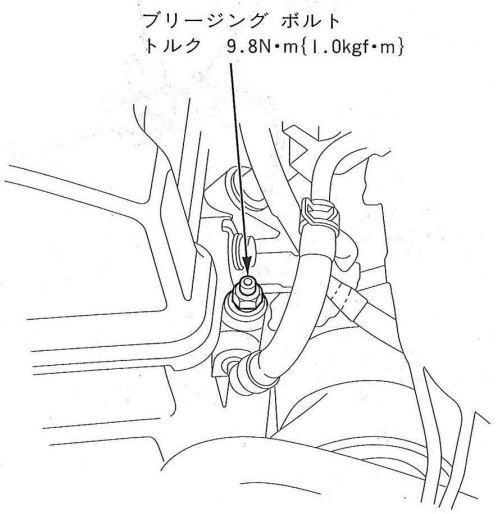
①ラジエータ キャップをゆるめて圧力を下げ、キャップを取外す。
注 意 水温が高いときキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっているので冷却水が吹き出し危険である。水温が下がってから静かに開けること。
②ドレン コックをゆるめて冷却水を抜き取る。リザーバ タンクの冷却水も同時に抜く。



③エンジン ドレン ボルトを外して、エンジン内の冷却水を抜く。



④ドレン コックを締付ける。
⑤新品のワッシャを使用し、エンジン ドレン ボルトを締付ける。
⑥上水道(軟水)の水にホンダ純正ウルトラ ラジエータ液を混合した冷却水をラジエータの口元いっぱいに補充する。この時インテーク マニホールドのブリージング ボルトをゆるめ、エンジン内のエア抜きを行う。エアが抜けて冷却水があふれてきたらボルトを締付ける。



⑦エンジンを規定のアイドリング回転数よりやや高めの回転数(約1,500rpm)で約10分位アイドリングし、サーモスタットが開いていることを確認する。
⑧エンジンを止め水面を点検する。水面が下がっているのはウォータ ラインのエアが抜けたためであるから再度口元まで冷却水を補充し、同時にリザーバタンクには上限(MAX)まで補充する。
⑨再度エンジンをかけ約1,500rpmで、水面が下らないことを確認する。水面がさらに下っていれば、エア抜きが不完全であるから、水面が下らなくなるまで繰返す。
⑩水面が下らなくなったら、ラジエータ キャップを取付ける。